

平成 28 年度 第 2 回 弘済ケアセンター
認知症対応型通所介護 運営推進会議 議事録

□ 日 時 平成 29 年 3 月 22 日 (水) 13:30～15:00

□ 場 所 弘済ケアセンター会議室、ホール

□ 主 催 弘済ケアセンター □書 記 弘済ケアセンター生活相談員

□ 出席者 (7 名)

利用者、利用者ご家族、地域住民代表 (民生委員)
知見を有する者 (グループホーム管理者)、
地域包括支援センター (連雀地域包括支援センター)
弘済ケアセンター (管理者、生活相談員)

□ 議事内容

1) 主催者挨拶 (運営推進会議の目的、構成員の紹介)

- ・改めて、運営推進会議の設置目的を説明し、構成員を紹介した。
今後もご家族は固定せず、多くの方に参加していただければ良いと思っていることを説明。

2) 認知症対応型通所介護「けやきの会」状況

- ・第 1 回開催時 (平成 28 年 10 月) と比べて、職員体制や利用者の介護度、男女比など
特に変化は見られないことを説明。

3) ケアセンター全体の変更点について

①食事場所

- ・併設の養護老人ホームとの共有場所であり、今までは時間をずらしながらの食事体制であつたが、養護老人ホーム入居者の重度化により、食事も時間がかかるようになっている。また、ケアセンター全体の状況としても、食堂への移動リスク・食事前後のトイレ移動や口腔ケア対応を含めて考慮し、昼食場所を食堂からホールに変更したことを説明。

(構成員より質問)

利用者にとって、食事場所が変更になったことでの反応は？

(所長)

食堂の環境や雰囲気が良かったので「残念」との声もあれば、食堂までの歩行距離が減ったことで「良かった」との意見もあつた。

②送迎車両

- ・利用状況の伸び悩みが有り、来年度は一般型定員を 45 名から 40 名に減ずる。送迎車両についても現在のマイクロバス 1 台とワゴン 3 台の体制を、4 月からワゴン車 4 台の体制に変更していく。リース料の低減だけでなく、すべての車両でご自宅前への送迎ができる体制となることを説明。

4) 本日の開催趣旨を説明

- ・第1回の運営推進会議で認知対応型プログラムについての説明をしているが、本日は、実際の活動場面に入っただき、活動内容や雰囲気、ご利用者の様子を知っていただきたいと考えていることを説明する。本日参加の利用者人数と男女比、欠席理由（3名がSS利用で欠席）、予定しているプログラム内容を伝え、ホールの活動場面に案内。

5) けやきの会プログラムへの参加（場所はホール）

- ・プログラムは、春や花をテーマにした話題・歌を行なっている。
（花の写真、卒業証書、学生服を準備）
- ・利用者9名（男性3名、女性6名）、職員3名の体制に参加。

6) 質疑応答・意見交換等

（所長） いかがでしたか。

（構成員） 穏やかに感じた。

（所長） 認知症に配慮して特別なことをやっているわけではない。他の活動でも同様の話題はしているが、けやきの会では全体的にゆっくり進めたり、皆さんが記憶に残っている若い頃のことを話題にしたり、季節のことを話題にすることが多い。

（ご家族） こういった場所は認知症の人が来るところだと思っていた。登録変更の話を聞いた時にはルールが良くわからなかった。普通の人と一緒に参加していたことも理解していなかった。連絡ノートを見ると、家族が知らない本人の様子が書かれているので（カラオケのマイクを持って歌うとか）「信じられない」と姉妹間で話している。以前は膝が痛くて「今日行かない」と話していたが最近は言わなくなった。「行かない」と言わないので楽しんだらと思う。デイの様子を聞いても覚えていないが、今は連絡ノートで様子がわかるようになった。

（所長） 全体で160人位の方が利用登録している。認知症の方（けやきの会）の登録は25名位だが、認知症状があり、かかりつけ医から認知症診断を受けている方は全体でも半分位はいると思う。認知症といっても比較的保たれている初期の方の場合、大きな活動や体の動きのある活動にも参加することができたり、簡単なルールのゲームを理解している方は大きい活動に入っている。展開のスピードや大勢で落ち着かない、落ち着いていても個別に関わらないと発言や反応が出にくい様子があったり埋もれてしまいがちな方。そういった方にけやきの会に参加していただいている。最大でも12名、職員が3名入っている。全体を進めている以外の職員がそれぞれの利用者にも声をかける形がとれるので、先程の場面では一言も発言していないメンバーはいなかったと思う。小さなグループで積極的にかかわりたいと思った方をけやきの会にご案内している。決して、認知症があつて対応が難しいからとかで、けやきの会にしているわけではないことを説明している。

※ご家族より、ご本人の性格や人柄、ご自宅での様子、ご家族の気持ちやご苦勞、介護保険サービスを追加した経緯などの話があり、出席者全員で傾聴している。

(構成員) だいぶ前から傾聴ボランティアで来ているが、最初の頃からお変わらないですね、本当に。いつも綺麗にされている。帰る時も皆さんとお話している。いつも穏やかに話されているので楽しそうです。

(構成員) 皆さんが笑う場面を作っていた。ご家族は家でのご本人しか見えていないが、今日のような場があると、「こんなに笑うんだ」「隣の人と話しているんだ」と見る目が違って見えるのではないか。簡単には見学参加してもらうのは難しいし、ご都合もあると思うが、家とは違う場面を介護者の人が見ることは良いことだと感じた。

(所長) いつでも見学してもらえるようにしている。ご家族に来ていただくことで、職員が知らない昔のエピソードも聞くことが出来るので良いと思う。前回出席された利用者家族も話されて下さったので、こういった形で今後も続けていきたい。

(ご家族) 交流会（ミニ家族会）もあるので、なるべく参加したいと思う。

(構成員) 途中で寝てしまった男性利用者の対応について。
隣の職員は反対側の利用者が「外に行きたいわ」と言い始めていたので対応していたが、別の職員が気づいて傍に行き、「起きて」とか言うのではなく、肩に手を触れながら、無理やりではなく自然にすっと起こしに行った。あの時間は食後で私達も眠い時間だし、良い歌を聞いたなら眠くなるのは仕方がない時間帯。「○○さん起きて」とか無理やり起こすのではなく、ちょっと体に触れた動きが自然で良いと感じた。素敵な光景を見せてもらった。
また、話だけでは思い出せないこともツール（花の写真、学生服など）によって回想法を使ったり、視覚的な情報を取り入れていたので参考にしたい。ぜひ職員をほめてほしい。チームワークを見せていただいた。

(構成員) 連携ができていると感じる。利用者が立って行ってしまっても何気なくスーッと付き添う。とても自然ですね。「駄目よ」と言うわけではなく、さりげなく対応している様子を感じる。皆さん素晴らしいと思います。

次年度も上期と下期に1回ずつ開催予定。